

## 教科目名 卒業研究 (Graduation Research)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 10 単位 (前期 4 コマ, 後期 6 コマ, 授業時間 195 時間)

担当教員 : 都市・環境工学科長, 卒業研究担当教員

授業の概要			
高専で修得した学習の集大成として卒業研究を実施する。都市・環境工学科教員の研究テーマから希望する教員の研究室を選択する。なお、各教員の研究室に所属できる学生は全学生数を全教員数で割ったおおよその人数とするので、全員が希望する教員につけるとは限らない。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (C1) (D1), JABEE 目標 (d2b) (d2c) (e) (f) (g) (h) (i)	
(1) 研究テーマに対して、自主的かつ計画的に実験等を遂行することができる。(中間報告会・試問)			
(2) 専門工学の基礎知識を統合して創造的に問題を解決することができる。(中間報告会・試問・卒業研究報告書)			
(3) 自分の研究内容について、プレゼンテーションとディスカッションをすることができる。(中間報告会・試問)			
月	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
4	1. ガイダンス, テーマ説明 2. 研究室配属先決定 3. 研究テーマの決定 4. 研究開始	○各教員が研究テーマを説明する。 ○各教員の研究室への配属は、学生の希望等によって決定する。 ○研究テーマと研究計画については、指導教員と相談の上で決定する。 ○学生の主体的な取組みが重要である。	【理解の度合い】
7	5. 中間報告書Ⅰの提出	○中間報告書Ⅰは 1 ページとする。	【理解の度合い】
			【評価】 点
11	6. 中間報告書Ⅱの提出 7. 中間報告会	○中間報告書Ⅱは 1 ページとする。 ○中間報告会を実施する。	【理解の度合い】
			【評価】 点
1	8. 卒業研究報告書・卒業研究概要の提出 9. 試問	○卒業研究報告書は 6 ページ以上 16 ページ以下とする。 ○卒業研究概要は 2 ページとする。	【理解の度合い】
2	10. 卒業研究発表会	○5C および 4C 学生に向けて、各研究室の代表者が発表する。	【評価】 点
履修上の注意		自発的に各研究テーマに取組み、実験・解析・計画等の内容を理解し、積極的に研究室内の他のメンバーとも協力して卒業研究を進める。調査のため校外に出かけることもあるが、事故等に対して十分に注意を払う。卒業研究をまとめるだけでなく、土木学会等の学外での発表ができるように期待する。時間割にこだわらず、放課後・休日・長期休暇中にも研究に従事する。なお、各授業時間では、担任による出席確認を行うので、授業開始 5 分前に教室に集合する。	【総合達成度】
教科書		なし。	
参考図書		担当教員と相談しながら各自で探す。	
自学上の注意		都市・環境工学の基礎事項を復習する。研究計画を立てる。	
関連科目		地域日本文学, 日本語表現法, 実験実習Ⅰ～Ⅳ, 応用測量実習, 無機物理化学実験, プロジェクト実験Ⅰ (専攻科), 特別研究Ⅰ, Ⅱ (専攻科)	
総合評価		(1) 達成目標の (1)～(3) について, ①中間報告会, ②卒業研究報告書, ③試問で評価する。①中間報告会は中間報告書と発表・質疑応答, ③試問は卒業研究概要と発表・質疑応答の評価とする。 (2) ①～③については, 複数の都市・環境工学科教員で審査する。 (3) ①～③の評価が全て 60 点以上の場合を合格とする。総合評価は別途「都市・環境工学科卒業研究評価方法」にて定め, 受講者に説明する。 (4) ①～③の評価点が 60 点未満 (不可) の場合, 再試験 (再審査) を受けることができる。	【総合評価】 点